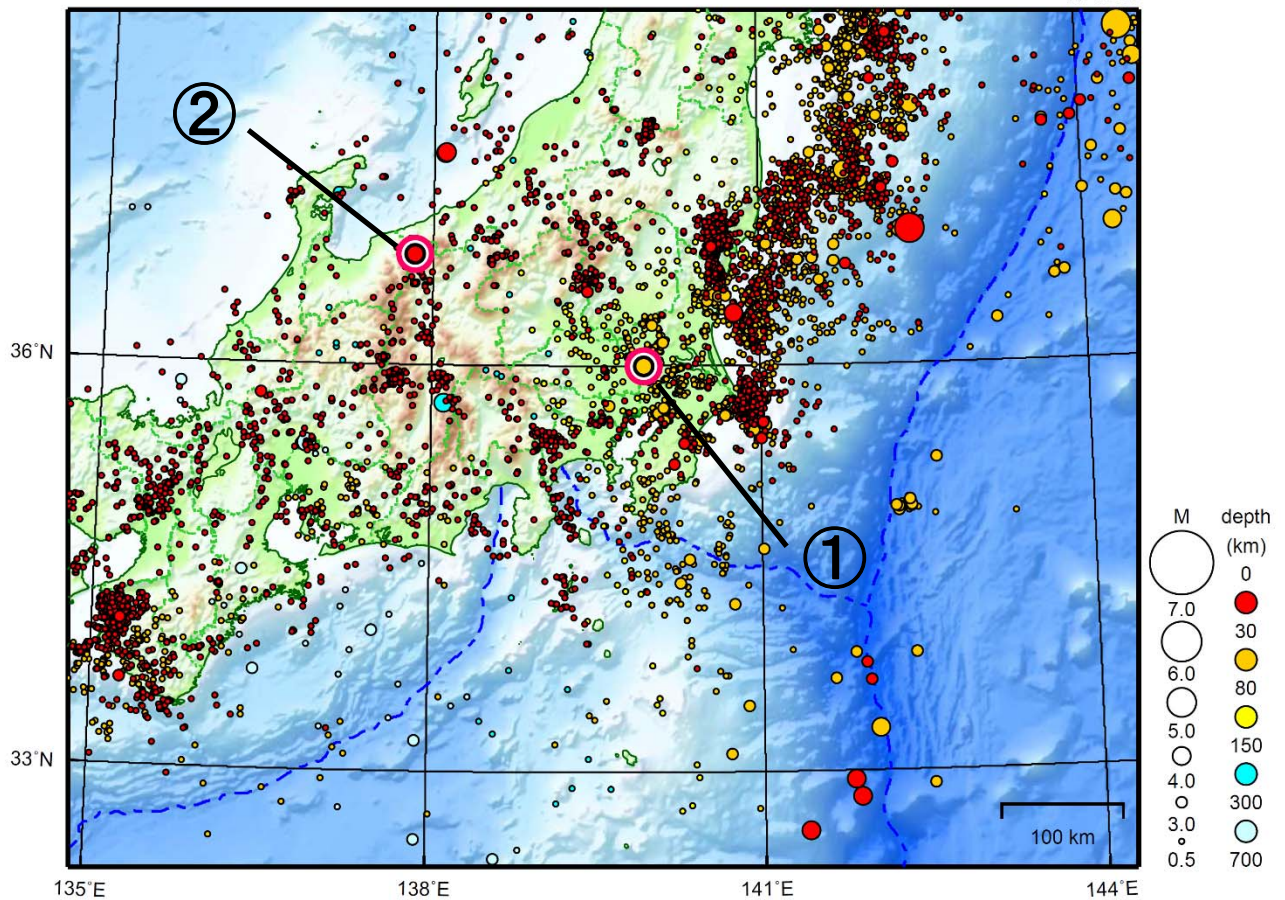


関東・中部地方

2016/06/01 00:00 ~ 2016/06/30 24:00

N=6966



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 6月12日に茨城県南部でM4.8の地震（最大震度4）が発生した。
- ② 6月25日に新潟県上越地方でM4.8の地震（最大震度4）が発生した。

（上記期間外）

7月1日に新潟県上越地方*でM4.6の地震（最大震度3）が発生した。

※情報発表に用いた震央地名は[長野県北部]である。

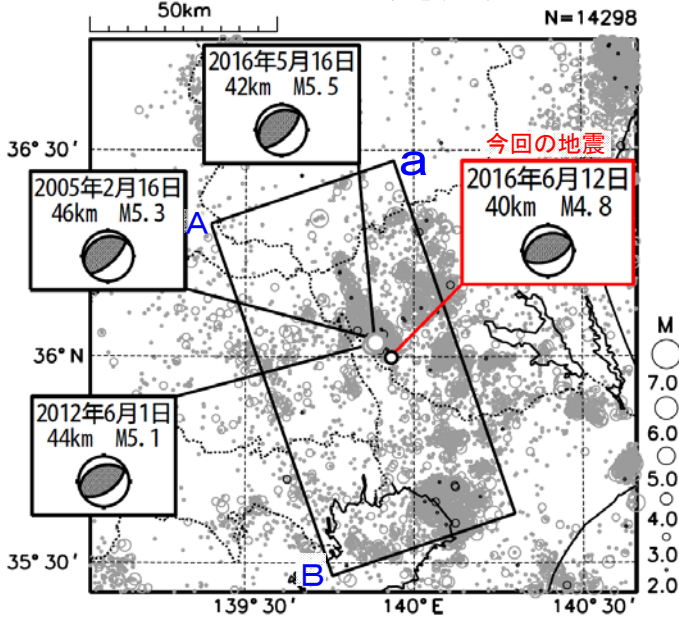
[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

6月12日 茨城県南部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2016年6月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 2.0$)

2016年6月の地震を濃く表示

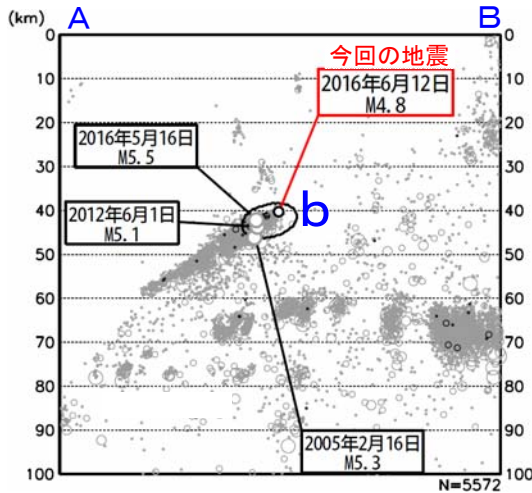


2016年6月12日07時54分に茨城県南部の深さ40kmでM4.8の地震(最大震度4)が発生した。この地震は発震機構が北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した。

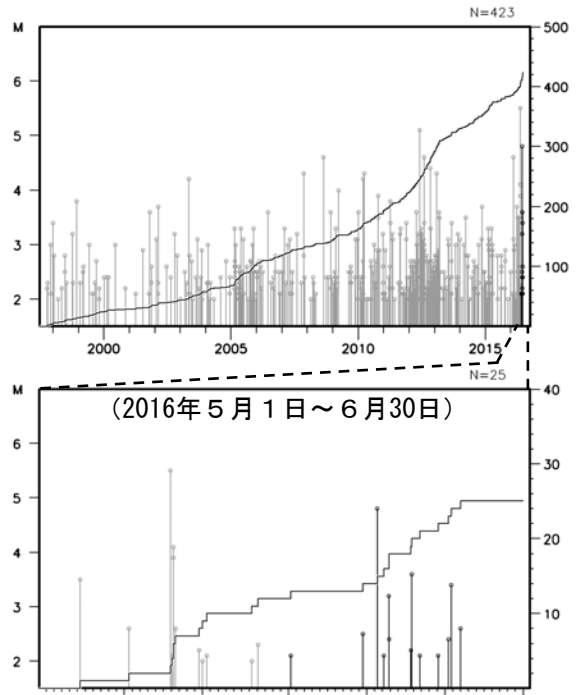
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)は、活動が活発な領域で、M5程度の地震がしばしば発生している。最近では、2016年5月16日にM5.5の地震(最大震度5弱)が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6程度の地震が時々発生している。

領域a内の断面図 (A-B投影)

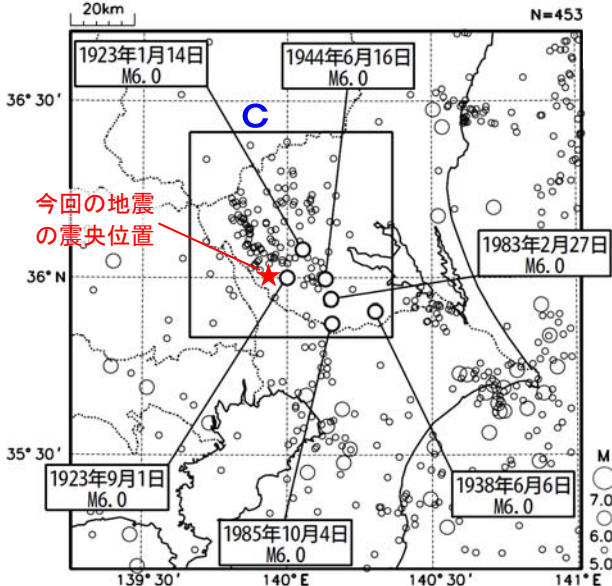


領域b内のM-T図及び回数積算図

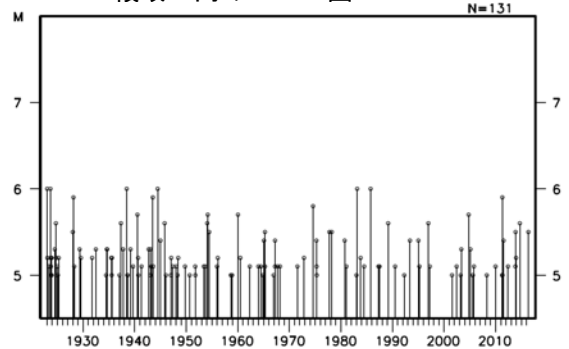


震央分布図

(1923年1月1日～2016年6月30日、
深さ0～100km、 $M \geq 5.0$)



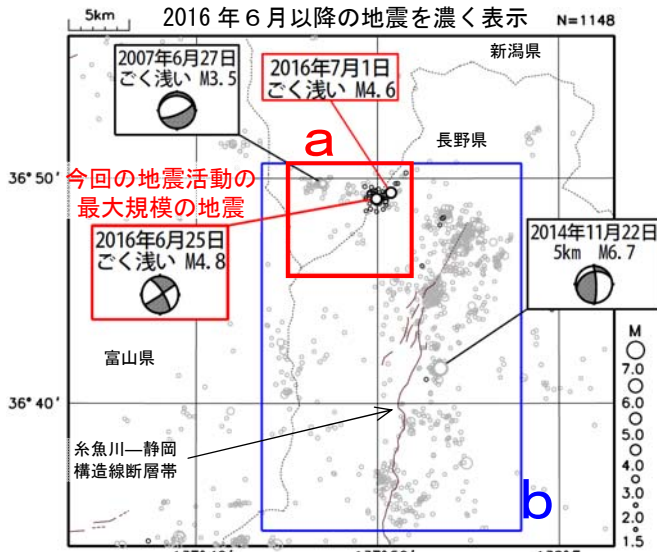
領域c内のM-T図



6月25日からの新潟県上越地方（新潟・長野県境付近）の地震活動

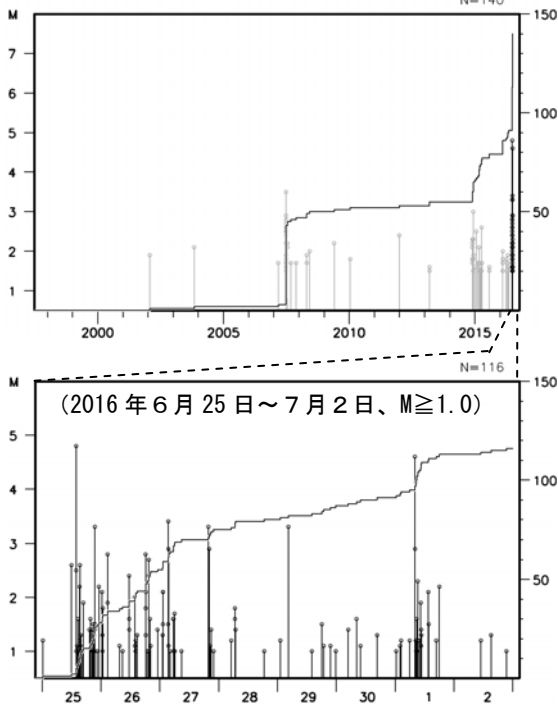
震央分布図

(1997年10月1日～2016年7月2日
深さ0～30km、M \geq 1.5)



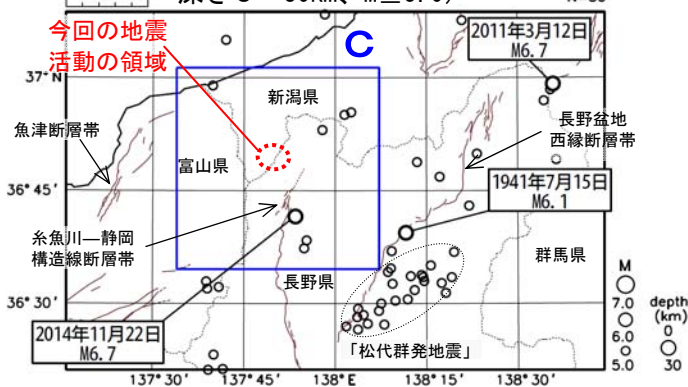
図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



震央分布図

(1923年1月1日～2016年7月2日
深さ0～30km、M \geq 5.0)



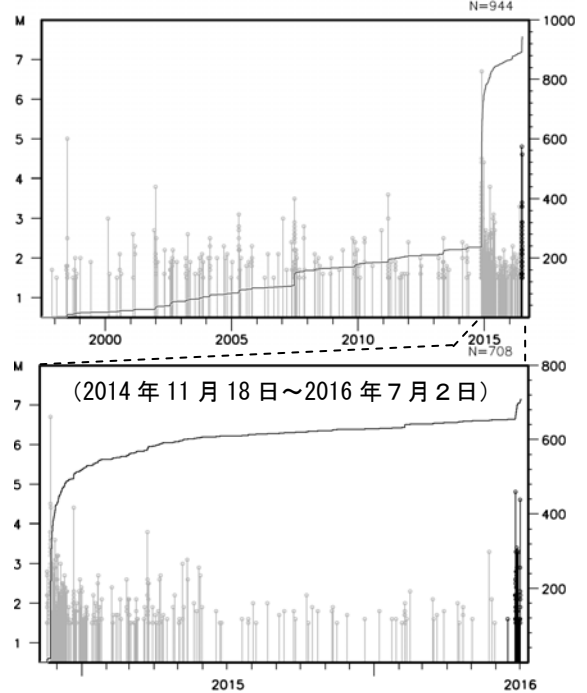
図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

2016年6月25日から新潟県上越地方（新潟・長野県境付近）で地震活動が活発となり、25日13時51分に新潟県上越地方のごく浅い場所で最大規模の地震であるM4.8の地震（最大震度4）が発生したのをはじめ、6月30日までに領域a内で震度1以上を観測する地震が11回発生している。これらの地震活動は地殻内で発生している。最大規模の地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。なお、7月以降も地震活動は続いており、7月1日にはM4.6の地震（最大震度3）が発生している。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震活動の震央付近（領域a）では、M4.0以上の地震は今回の地震が初めてであった。なお、今回の地震活動の震央周辺（領域b）では、2014年11月22日に発生した長野県北部の地震（M6.7、最大震度6弱）により、負傷者46人、住家全壊77棟などの被害が生じている（被害は総務省消防庁による）。この地震の発生後は領域a内でも地震活動がやや活発となった。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、2014年11月22日に発生した地震が最大規模の地震である。

領域 b 内の M-T 図及び回数積算図



領域 c 内の M-T 図

